

超多心 WTC® 光ファイバネットワークを効率的に構築するソリューションの紹介

当社は、超多心 WTC®・細径高密度型光ファイバケーブルの特長を活かし、効率的に光ファイバネットワークを構築できるソリューションをご用意しています。

最新光技術の SWR®・間欠固定テープ心線を利用して、従来の1000心テープスロット型光ファイバケーブルと同じ外径※で2000心、3000心を実現した超多心 WTC では、数千本の光ファイバの識別を容易にするため、8心 SWR を束にした光ファイバユニットを複数用いて構成しています。この超多心 WTC から分岐接続する際にユニット割れを発生させることなく、ユニット単位で接続できる親和性の高い少心 WTC を開発しました。この製品は、従来4心テープ心線を用いていた少心ケーブルを8心 SWR で構成することで、超多心 WTC と8心一括接続ができますので、分岐ケーブルとして融着接続数を大幅に削減することが可能です。この接続をおこなう超多心 WTC 対応の地下用クロージャも

ご用意しています。

また、19インチラック搭載成端ユニットもプレ配線に8心 SWR を採用しており、この少心 WTC と親和性が高く、端末側でも融着接続数を削減できます。

本ソリューションにより、8心 SWR を基本として超多心光ファイバネットワークを効率的に構築することが可能となりました。

※当社製品の比較による



成端ユニット
FTB-207



3000心クロージャ
FMCO-TN-HA-CK21

SWR® : Spider Web Ribbon® WTC® : Wrapping Tube Cable®

■SDGs 17目標に該当するポイント

現代社会に必要な通信インフラの一つである光ファイバネットワークを効率的に構築するためのソリューションです。今後も、高度情報化社会の発展に貢献します。



✉ ソリューション営業技術部 : telcon@jp.fujikura.com

耐振性を向上させた MMCX 形コネクタ MMCXF シリーズの紹介

当社は、従来の MMCX 形と互換性を持ちながら、耐振性を大幅に向上させた MMCXF シリーズ(写真1)を開発しました。従来の MMCX コネクタ(規格品)は、コネクタの嵌合において、リング開閉の反発力により接触力が得られる構造であったため、挿抜による変形が生じやすく、接触が不安定になる傾向がありました。MMCXF シリーズでは、リング自体をばね接触部品として一体化したプレスリングを採用することで、接触信頼性の向

上と多点接触を実現し、高い耐振性を確保することが出来ました。(表1、2)

本製品は基地局・通信機器だけでなく、ヘッドホン(イヤホン)などの挿抜の多い製品やドライブカメラにも採用されています。

※MMCX : Micro Miniature Coaxial (マイクロミニチュア同軸)

■写真1 コネクタ外観



■表1 従来品との比較

	コネクタ形状		耐振性
MMCX			98m ² /s ² (10G)
MMCXF			196m ² /s ² (20G)

■表2 製品仕様

特性インピーダンス	50Ω
定格電圧	AC335V(r.m.s.)
耐電圧	AC500V(r.m.s.)/1分間
絶縁抵抗	DC500Vで1,000MΩ以上
接触抵抗	中心導体 5mΩ以下 外部導体 2.5mΩ以下
使用周波数帯域	DC~6GHz
VSWR	1.2以下
使用温度範囲	-55~+85℃
耐振性、耐衝撃性	振動: 196m ² /s ² (20G) 衝撃: 735m/s ² (75G)

■SDGs 17目標に該当するポイント

耐振性を向上させることにより、安定したインフラの発展に貢献します。



✉ コネクタ事業部 : ddk.contact@jp.fujikura.com